

日本看護研究学会 近畿・北陸地方会

NEWSLETTER

世話人代表選挙結果

去る2006年12月に近畿・北陸地方会の世話人代表選挙が実施されました。

選挙管理委員である平田雅子氏(前神戸市看護大学)と矢吹明子氏(京都市立看護短期大学)による開票の結果、阿曾洋子氏(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻統合保健看護科学分野)が選出されました。(投票率18.1%)

任期は2007年4月1日から2010年3月31日です。



第20回地方会学術集会開催にあたって

第20回近畿・北陸地方会実行委員長
山本恭子

今回の学術集会実行委員長を受け賜り、テーマを決めるにあたり、私の専門分野である感染看護をとりあげさせていただこうかとも思いました。感染看護というと、私の専門分野ではないと避けられる方も多いかと思いますが、実はほとんどの領域に関わる分野だと思しますので、そのことをお伝えしたいと思いました。しかしながら、私にはもうひとつ会員の皆様にお伝えしたいメッセージがありました。それが今回のテーマである「看護における実践や体験を研究にのせる」です。

皆様もご存知のとおり、特に近畿・北陸地方会では平成15年度より看護研究継続セミナーを発足し、地方会の研究を活性化する活動を進めて参りました。その中で看護研究について右も左も分からない私は、平田先生、西田先生、黒田先生をはじめ、多くの先生方にご指導をいただく機会を得ることが出来、また励ましてもいただきました。そのような流れの中から今回のテーマを決定いたしました。

今回の学術集会を通して、少しでも多くの会員の皆様に先生方の研究に対するスピリッツをお伝えすることができればと願っています。

地方会18年度 事業内容

1. 第20回地方会学術集会開催予定
日時：2007年3月18日(日)
場所：園田学園女子大学7号館
テーマ：看護における実践や体験を研究にのせる
実行委員長：山本 恭子
(園田学園女子大学人間健康学部人間看護学科)
2. 平成18年度総会開催予定：2007年3月18日(日)
3. 第5回看護研究継続セミナー：2006年10月28日(土)
4. ニュースレター第8号発行

伝言板

★平成18年度総会では、選挙規約、ニュースレター編集ガイドラインについて諮られる予定です。
★ニュースレターへの投稿原稿を募集しています!!

原稿の投稿および問い合わせ先：

日本看護研究学会近畿・北陸地方会事務局(神戸市看護大学内)
平河勝美 TEL：078-794-8042

第5回看護研究継続セミナーを終えて

若村智子（京都大学医学部保健学科看護学専攻）

平成18年10月28日に、第5回看護研究セミナーを京都大学医学部保健学科の演習室で開催しました。秋晴れの中、19名の参加者およびコーディネーター6名の参加がありました。今までのセミナーは講義形式でしたが、今回は演習形式でした。

第1部は簡単な体温測定の実験を行いました。実際の指などの皮膚温の測定は、新鮮な発見があった方もおられたのではないのでしょうか。今回のセミナーの主目的は西田先生の前回に引き続き、データ解析でしたので、得られたデータをパソコンに入力し、エクセルを用いて統計解析の実際を行いました。

第2部は、それぞれでテーマや研究方法などについての交流会を行いました。美味しい芋けんぴを皆さんでつまみながら、研究について語り、参加者同士のメールアドレスの交換だけでも今後につながり、このセミナーの役割があるように思えます。私のグループでは、今は学会発表に向けて準備中ですので、そのことが話題になりました。出会ってから何年にもなり、すぐにその成果は見えませんが、このような草の根のネットワークの

広がりや、看護の質の向上につながるのではないかと思います。次回の地方会学術集会でもこのような交流のチャンスを通して、新たな出会いがあることを願います。



第19回地方会学術集会に参加して

鯉坂由紀（京都市立看護短期大学）

平成18年3月19日、第19回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会での発表に臨みました。私にとって、学会発表は初めてであったため、口述の内容やポスター作成にかなりの時間を費やしましたが、教授のご指導を受けながら、無事発表の日を迎えることができました。テーマは「学習モデルとしての看護師の行動についての検討」であり、1年次学生の基礎看護学実習（見学実習）でのレポートの内容分析により結果を導きました。

その結果として、学生は限られた時間の中で看護師の行動に注目し、中でもコミュニケーションに関心を注ぎ意味付けを行なっていることが明らかになりました。学生の学び取る力の大きいことに驚き感心したと同時に、臨地実習で学生が経験したことをいかに看護の学習として意味付けするか、また、学生が経験する臨床の場をどのように調整するかという、教育者の役割を認識することができました。

小さなテーマで始めた研究ですが、この研究機会に、学生の経験を大切に、その経験したことをいかに効果的に教材化していくかを意識し、思考錯誤しながら、学生と共に実習に励んでいます。学会発表を経験したことから、自分自身の課題も明確になり、また他の研究発表から刺激を受けることもできました。今回の学会発表での学びを糧として、臨地実習指導、研究に取り組んでいこうと考えています。



編集後記 今年の冬は、地球温暖化をひしひし感じる暖冬でした。医療の現場では、診療報酬の改定に伴う看護師獲得戦線がまだまだ熱く繰り広げられています。社会情勢の変化に敏感に反応し、臨床と教育の場をつなぎ、互いに高め合えるような編集室をめざしています。 編集室（今西・滝下）